横浜医学，65，515-522（2014）

総説（平成25年度横浜市立大学医学研究奨励賞受賞研究）

2型糖尿病における血糖コントロールと心血管疾患リスク
―重症低血糖の役割

後　藤　　温[1)]，寺　内　康　夫[2)]

[1)] 国立国際医療研究センター研究所　糖尿病研究センター糖尿病研究部，
[2)] 横浜市立大学大学院医学研究科　分子内分泌・糖尿病内科学

要　旨：久山町研究をはじめとするわが国のコホート研究によると，糖尿病患者では心筋梗塞，脳梗塞などの心血管疾患リスクが２～４倍高いと報告されており，治療介入により血糖コントロールを改善させると心血管疾患リスクを減少させることができると期待されていた．しかし，UGDP研究，UKPDS，ACCORD試験，ADVANCE試験，VADTなどの大規模ランダム化比較試験では，いずれの試験も単独では厳格な血糖コントロールが心血管疾患を有意に減少することを証明できなかった．さらに，UGDP研究やACCORD試験では，厳格な血糖コントロールを行った群において心血管死亡が増加していた．

筆者らは，厳格な血糖管理により重症低血糖（他者の助けを必要とする低血糖）が高頻度に出現し，重症低血糖が心血管疾患を誘因する，という仮説を立て，系統的レビューとメタアナリシスを実施した．対象者約90万人の解析により，重症低血糖の心血管疾患リスクは2.05倍（95% 信頼区間 1.74-2.42）であることを報告した．

本結果は心血管疾患リスク予防のためには重症低血糖を回避して血糖コントロールを行うことの重要性を支持するものであるが，心血管疾患リスクの低い日本人でのエビデンスが不足しているため，今後の研究に期待する．

Key words:　２型糖尿病（Type 2 diabetes），血糖管理（Glycemic control），
低血糖（Hypoglycemia），心血管疾患（Cardiovascular disease）